

未来を生き抜く力と健やかな「からだ」の育成

チーム武庫

6月号

三田市立武庫小学校長 松田文貴

《コロナウイルス対策について》

ご存じのように緊急事態宣言が6月20日まで延長になりました。したがって、予定しておりました行事も中止や変更を余儀なくされます。17日(木)の参観日や各学年の校区探検などの校外学習がそれに当てはまります。交通安全教室やパッカー車を招いての環境学習も延期になりました。参観日についてはお子様の学校の様子を見ていただく良い機会だととらえておりました。昨年度も「担任の先生と出会う機会がなくて・・・」との声もいただいております、担任の顔を見ていただける機会であると楽しみにもしておりましたので、学校としても残念です。

学校の教育活動についても、歌唱やリコーダー等の学習、近距離に集まるような調理実習や理科実験、身体接触が頻繁にみられるような体育学習等、感染リスクのある学習は控えております。話し合い活動も時間や距離を制限しながらの活動になり、教師も子どもたちも苦労しながら日々を過ごしております。

そのような中、タブレットを使った学習や大型テレビを使った学習を進めたり、学級活動や児童会活動などを工夫して、子どもたちの関係を紡いでいく取り組みを進めたりしています。子どもたちの順応力は素晴らしく、いつもと異なる取り組みにも意欲をもって楽しそうに過ごしてくれています。このような時だからこそ「人とのつながり」が大切になってくるのではないのでしょうか。それが学校教育目標の「未来を生き抜く力」に直結するのだと思います。

これからも急な変更等があるかもしれませんが、ご理解、ご協力を賜りますようお願いいたします。また、何度も申しあげておりますように、体温測定や手指消毒、習い事や休日の外出時においてもマスク着用、近距離での大声の会話を控えるなどの感染防止対策もよろしくようお願いいたします。

《「あいさつ」と「つながり」》

「人とのつながり」でよく言われるのが「あいさつ」です。5月号でもお知らせしましたように、毎朝、校門のところで登校の見守りをしていますが、昨年度に比べてあいさつを返してくれる子が格段に増えたように感じます。あいさつが増えるとうれしい気持ちになります。どうしてかと考えてみたところ、やはり言葉を交わすことで相手とのつながりを感じられるからではないのでしょうか。正門前だけでなく、校舎内でも「こんにちは」「いってらっしゃい」「おかえり」という会話が増えました。決められた場所でパターンとして、「しなければならないからあいさつをしている」ような感じではなく、とても温かい気持ちになります。こんなことが増えてくるにつれ、あいさつをはじめ、声をかけたときに相手から反応があることで、自分の存在が肯定されるのだと改めて感じました。

こちらから声をかけると、しっかり返してくれる子、落ち着いた声で返してくれる子、恥ずかしそうにうなずいてくれる子、反応は様々ですが、朝から嬉しい気持ちになります。自分から「おはようございます」とあいさつをしてくれる子も増えてきました。校内で出会ったときに、何も言わないけれど手を振ってくれる子もいます。目が合ったとき、その子とつながれたような気になります。アイコンタクトだったり、ハンドサインだったり、言葉でなくても意思疎通を図ることはできます。パターンとしてではなく、その場その場のつながりを大事にしていくことが大切であると思います。やはり、目を合わせて対話するということが大切なことなのです。

「おはよう」「さようなら」だけがあいさつではなく、「いただきます。」「ごちそうさま。」「おやすみ。」「ただいま。」などもあいさつですし、呼ばれたときの返事もあいさつかもしれません。声をかけても反応がないと寂しいものです。学校でも家庭でも、大人も子どもも、目を合わせた会話が増えますように。



《応援していただきありがとうございます！》

学校の正門右手に小さな花壇があります。何年も前から、地域の方がお世話をしてくださっていました。季節に応じて色とりどりの花が咲いていました。この春、花壇に「都合によりお世話ができなくなりました。」と立札が。学校に来られることなく、いつの間にかお世話をしてくださっている方でした。お宅を訪問し、お礼を申し述べたところ、「好きでやっていたもので・・・」とありがたいお言葉をいただき、ただただ、感謝の念で頭が下がるだけでした。

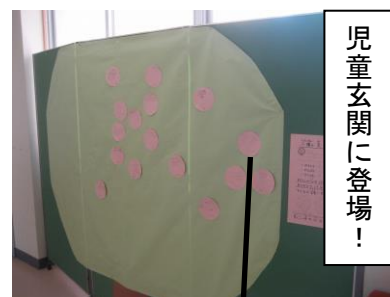
数日後、そのお気持ちを引継ぎ、お世話をしてくださる方ができました。地域の学校を美しくしたいとの思いで取り組んでくださっています。今はひまわりがすくすく育っています。寄せ植えのようになっていますので、色とりどりの花が咲いています。本当にありがたい限りです。

学習支援ボランティアや地域の方の草刈りなど、学校を支えてくださる地域の皆様のお気持ちには本当に感謝の気持ちでいっぱいです。このような形で学校を支えてくださっている方がいてくださるからこそ我々教職員も頑張ろうという気持ちになれます。本当にありがとうございます。

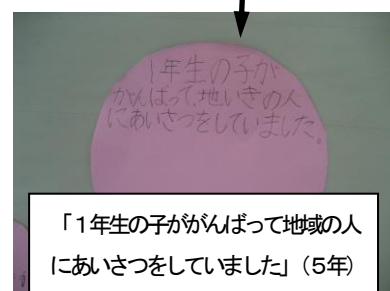


《「人権の木」登場！》

「心ぼかぼか」が武庫小学校の合言葉として登場し、数年が経ちました。1年生では「ちくちくことばとふわふわことば」の学習をしています。みんなが「心ぼかぼか」になれる学校づくりをさらにすすめていきたいと思っています。人権日より「心ぼかぼか」も発行しました。人権って難しく考えがちではありますが、そうではなく、自分を好きになる、自分が認められる、自分らしくいきるためにどうすることかを考えることだと思います。自分に優しく、人に優しく、周りのものに優しく・・・できることから始めてほしいと思います。校内にも「人権の木」が登場し、「人権の実」が付き始めました。ほかの子の様子を見て、素敵だなと思ったことを書いて貼るという簡単なシステムです。この木に多くの実がたわわに実り、いっぱいになった時、学校全体が「心ぼかぼか」になるでしょう。その時が楽しみです。ぜひ、ご家庭や地域でも、素敵なシーンをたくさん見つけて、心の中にためていってください。学校にお知らせしてくださっても構いません。素敵なお話大歓迎です。



児童玄関に登場！



「1年生の子がけんぽって地域の人にあいさつをしていました」(5年)

《GIGAスクール武庫》

授業の中でタブレットを取り入れ始めています。ホームページの「GIGAスクール武庫」でもお知らせしましたように、昨年度末から各学年にタブレットが配布されました。まだ家庭に持ち帰ることはしていませんが、授業において活用をしています。学級園の作物を動画や静止画で撮影して観察に生かしたり、自分の音読を録画して先生に送ったり、他の子の器械運動を撮影してあとでポイントチェックをしたり、様々に活用しています。タブレットと言えば

オンライン授業を思い浮かべられる方が多いかと思いますが、それだけではなく、さまざまな活用方法があります。それに習熟することが大切だと考えています。「習うより慣れろ」とはこのことです。タブレットを扱えることに慣れれば、いかに学習に活用できるかの段階です。これからが楽しみです。



先生が画像をテレビに転送



自分の作物を観察